



胃炎に気をつけたいワンちゃんの年齢は？

■ワンちゃんの胃炎・胃腸炎による通院傾向

2010年度（2010/4/1～2011/3/31）にアニコム損保の「どうぶつ健保」契約を開始した0～12歳の犬297,745頭について、胃炎・胃腸炎での通院傾向を調査しました。

年齢別に通院割合をみたところ、0歳をはじめとする若齢期に高く、その後成犬になるにつれていったん減少し、高齢になると再び上昇するという傾向がみられました（図1）。そこで0～2歳・10～12歳それぞれの年齢において1年間の通院回数を調べたところ、0～2歳ではほとんどが1回または2～5回と少数であるのに対し、10～12歳では6～9回や10回以上通院している割合が増える傾向にありました（図2）。

図1：年齢別にみた胃炎・胃腸炎による通院割合

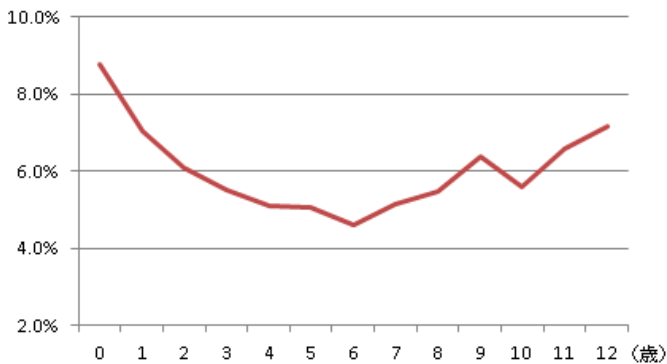
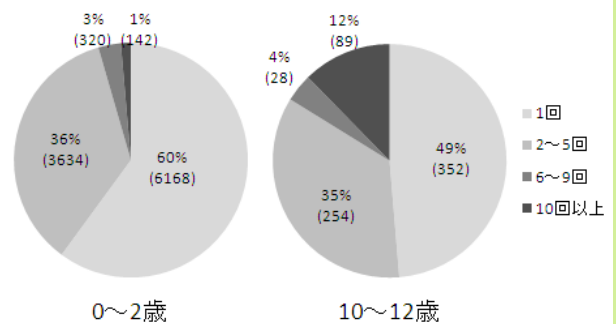


図2：主な年齢での胃炎・胃腸炎による通院回数



※ 2010年度（2010/4/1～2011/3/31）にアニコム損保の「どうぶつ健保」契約を開始した0～12歳の犬297,745頭について、胃炎・胃腸炎での通院割合を調査しました。

※（）内の数字は、各年齢の契約頭数を示しています。

■胃炎・胃腸炎で気をつけたいポイント

若齢期は異物誤飲や環境変化によるストレスが多いことから、単発～数回程度の通院が多いものと考えられます。一方で、高齢になると免疫力の低下にともない、慢性・難治性の胃腸炎や免疫介在性胃腸炎などが増加するし、通院が長引く傾向がみられるものと考えられます。

胃腸炎の主な症状は、元気・食欲の低下や嘔吐・下痢などがあげられます。また治療では、まず胃を休めるために絶食させることもあるので、若齢や高齢のワンちゃんにはかなりの負担になってしまいます。調子がおかしいかな？と感じたときは、早めに通院してあげましょう。

- ・ 若齢&高齢のワンちゃんは、胃腸炎にかかりやすい傾向あり。
- ・ 高齢のワンちゃんは治療が長引きやすいため、早めの通院を。

